



熊谷市 記者クラブ取材情報

平成29年 4月25日発表
担当課: 江南文化財センター

事業の名称等

新指定文化財記念「みかりや関連資料」特別展示 中山道と熊谷の文化財をめぐっての開催について

1. 日時 5月10日(水)～8月31日(木) 午前9時から午後5時 (土日祝 休館)

2. 場所 熊谷市立江南文化財センター・ロビー(熊谷市千代329)

3. 事業概要

平成29年3月31日に熊谷市有形文化財に指定された「みかりや」関連資料について江南文化財センターにて特別展示します。

会期: 平成29年5月10日(水)～8月31日(木)
午前9時から午後5時 (土日祝 休館) 入場無料
場所: 江南文化財センター・ロビー(熊谷市千代329)

「みかりや」関連資料(版木・看板・関連文書・日本画・型紙 合計約360件)のうち、看板5件、版木5件、日本画「架鷹図」(かようず)、型紙などを中心とした展示を予定しています。その他、「みかりや」の歴史と関連した資料について解説するパネルを掲示し、郷土の歴史について知見を深める機会を提供します。

(「みかりや」及び関連資料についての詳細は別紙をご参照ください。)

4. 特徴やPRポイント

「みかりや」関連資料: 中山道に隣接する久下の戸森家は「みかりや(御狩屋)」と号し、中山道を描いた浮世絵である溪斎英泉「岐阻(木曾)道中 熊谷宿 八丁堤景」の題材となっています。代々茶屋を営む中で、上岡の馬頭観音(東松山市妙安寺)で売り出す絵馬を製作し、絵馬製作のための型紙、製薬や販売に関連した看板や版木、忍藩主の鷹狩りに由来する日本画「架鷹図」(かようず)などが残されています。

戸森家が所有する「みかりや」関連資料の一般公開は初めての機会となります。

5. その他

本展示に先んじて、4月26日午前10時から、みかりやが所在した地区の久下公民館において、「中山道と熊谷の文化財」と題し、当資料を含む中山道に関連した文化財などについて解説する講座を開催します。

資料の有無(有 ・ 無) 概要資料

担当者 熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主任(江南文化財センター)山下祐樹

連絡先 電話 048-536-5062 画像等連絡用: c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

熊谷市有形文化財「みかりや」関連資料の概要について

熊谷市立江南文化財センター

1 「みかりや」関連資料

名称 「みかりや」関連資料 一括
(看板・版木・関連文書・日本画・型紙)

種別・種類 有形文化財・歴史資料

所在地 熊谷市久下

所有者 戸森茂秋氏

概要

久下の戸森家は、「みかりや(御狩屋)」と号し、代々茶屋を営むかたわら、上岡の馬頭観音(東松山市妙安寺)で売り出す絵馬を描いており、絵馬の型紙や「みかりや」に関連する古文書を所蔵している。「みかりや」の屋号は、忍藩主が狩りのときに休んだことが由来とされている。その際に授けられたと伝えられる鷹図等がある。また、溪斎英泉「岐阻(木曾)道中 熊谷宿 八丁堤景」(右図)は、中山道熊谷宿を描いた絵画であり、「みかりや」が題材となっている。また、薬の販売や各地の講中の定休所ともなっており、関連した看板や版木が残されている。その家の資料群は、熊谷にとって極めて重要であり、絵馬や薬の販売など、近世・近代の北武蔵の商家を考える上でも貴重である。



版木・看板 (版木16点・看板12点)
(戸森茂秋氏 所有)

形状	表題	差出・作成等	寸法(cm)・備考
版木	免許家伝神妙湯腫脹之薬(主治効能・用法)	調剤本舗武州大里郡久下村金盛堂戸森金太夫	縦 23.0×横 34.9
版木	免許家伝精順湯瘡毒の妙薬(主治効能・用法)	製薬所埼玉県大里郡久下村大字久下金盛堂戸森金太夫	縦 16.0×横 21.8
版木	御注意(神妙湯)		縦 15.3×横 11.8
版木	主治効能		縦 13.3×横 10.5
版木	家伝神妙湯	埼玉県大里郡久下村大字久下金盛堂戸森金太夫	縦 13.5×横 11.0
版木	免許家伝精順湯瘡毒の妙薬	製薬所埼玉県大里郡久下村大字久下金盛堂戸森金太夫	縦 17.5×横 13.2
版木	免許家伝くげの目薬	本家調合所中山道久下村戸森氏製	縦 11.0×横 16.5

版木	神妙湯免許日本一家伝はれものゝ妙薬	調合所武州大里郡久下村金盛堂戸森金太夫	縦 27.6×横 13.2
版木	効能・用法		縦 12.8×横 10.4
版木	日本唯一救瘡丸	神妙湯本舗埼玉県大里郡久下村大字久下金盛堂戸森金太夫製	縦 12.6×横 10.6
版木	救瘡丸日本無二家伝秘方かさの妙薬	武州大里郡久下村調合所戸森金太夫製	縦 22.7×横 11.0
版木	日本無二救瘡丸		縦 11.9×横 7.3
版木	瑠珠散御目薬	製薬者埼玉県大里郡久下村金盛堂戸森金太夫	縦 8.7×横 7.1
版木	精順湯		縦 9.6×横 3.5
版木	家伝秘法真珠救瘡丸瘡毒之妙薬	本家調合所武州忍領久下邨戸森金太夫(1867年)	縦 33.0×横 49.0×厚 2.0、裏書なし
版木	家伝秘方ひせんの妙薬(日本無二瘡毒の妙薬)	武州大里郡久下村戸森金太夫製	縦 70.4×横 23.2×厚 3.8、両面彫
看板	吉見大々桐生講		縦 61.9×横 19.1×厚 2.4、木製、裏書なし
看板	免許売薬営業		縦 91.5×横 22.2×厚 3.3、木製、墨書、裏書なし
看板	家伝請合ひせんの妙薬	中仙道久下村調合所戸森金太夫	縦 84.2×横 26.5×厚 2.5、木製、裏書、墨書「日本無二瘡毒の妙薬中山道久下村戸森金太夫」あり
看板	家伝秘法痲病之妙薬		縦 111.3×横 18.5×厚 2.4、木製、裏書なし
看板	免許家伝瑠珠散くげの目薬	武州大里郡久下村調合所金盛堂戸森金太夫	縦 115.2×横 33.5×厚 3.4、木製、裏書なし
看板	家伝瘡毒請合救瘡丸(家伝さうどく請合きうさう丸)	坂下金太夫製	縦 88.5×横 39.0×厚 4.5、木製、裏彫りあり
看板	家伝免許精順湯瘡毒之妙薬	中山道久下邨調合所戸森金太夫	縦 109.8×横 37.0×厚 2.4、木製、裏書なし
看板	免許家伝日本一神妙湯腫瘍之薬	調合所武州大里郡久下村金盛堂戸森金太夫	縦 121.5×横 35.6×厚 3.0、木製、裏書なし

埼玉県立歴史と民俗の博物館寄託

看板	江戸 貳百五十一番 大東講休	講元発起人 大城屋良助	縦 84.3×横 31.8×厚 4.5、木製(裏面同)
看板	大阪 浪花講	講元 松屋甚四郎 発起人 まつや源助	縦 77.4×横 35.3×厚 3.8、木製(裏面同)
看板	上毛桐生新宿 吉見太々講		縦 58.5×横 19.1×厚 2.5、木製(裏面同)
看板	吉見 太神宮 永代太 江戸日出講	元治二年乙丑歳四月之吉 世話人	縦 76.2×横 23.2×厚 3.0、木製

関係文書類

諸帳面・記録簿（8点）

- ・「旗奉納諸懸り帳」久下村世話人金太夫（明治2年）
- ・「大福帳」久下御狩屋金太夫（明治6年）
- ・「金銀出入覚帳」久下村御狩屋弥四郎（明治11年）
- ・「神事諸入用払方帳」（明治10年）
- ・「万覚帳」久下戸森弥四郎（明治12年）
- ・「大福帳」戸森弥四郎（明治15年）
- ・「判取帳」久下邨戸森弥四郎（明治12年）
- ・「大調宝記諸事扣帳」
埼玉県大里郡久下村字久下蚕業大来館百六拾番地戸森広助（明治35年）

絵馬講連名帳等（21点）

- ・「絵馬講連名帳」当世話方久下村弥四郎（明治12年）
- ・「絵馬仕入帳」久下戸森弥四郎（明治12年）
- ・「絵馬講中連名記」世話人金太夫（明治13年）
- ・「絵馬講連名簿」世話役中久下村戸森金太夫（明治15年）
- ・「観音講社連名簿」当世話人戸森金太夫（明治15年）
- ・「絵馬講社中」世話人久下村戸森金太夫（明治17年）
- ・「絵馬講社中」久下村金太夫（明治19年）
- ・「絵馬講連名帳」下久戸森金太夫（明治20年）
大正・昭和期 同連名帳 他12件
- ・「絵馬販売簿」久下邨戸森金太夫（明治22年）

書状・収蔵書等（5点）

- ・書状「家伝神妙湯」武州大里郡久下村調剤本舗金盛堂戸森金太夫（近代）
- ・「神妙湯売捌帳」戸森金太夫（大正11年）他4点
- ・「売薬検査願(万能膏)」(明治42年)
記録者：埼玉県大里郡久下村大字久下平民金盛堂戸森金太夫
受領者：埼玉県知事島田剛太郎
- ・『古文真宝前集・後集』鈴木益堂校本 帙入り(3冊一括)、刊本
(帙に戸森不遠の墨書「養子不教父之過訓導不嚴師之情」あり)(安政2年)
- ・『根本山参詣路飛渡里安内全』福岡治郎兵衛撰(安政6年)
(裏表紙に墨書「中仙道市田庄武州忍久下御狩屋金太夫」あり、刊本、久下・熊谷
新宿・下宿・上宿・妻沼町などの店が紹介されている)

日本画「架鷹図」(かようず)(2点)

(本絵と下絵)江戸時代

本絵(絹本)本体部 縦95cm×横35cm・

下絵(紙本)とともに上部が欠損し追加部がある。

絵馬型紙(約300件)

絵馬型紙一括

戸森家所蔵看板・版木



日本画「架鷹図」(本絵)

解説

「みかり屋」関連資料の概要

「みかりや」の概要

「みかりや」は、中山道が久下宿から熊谷宿へ向かう途中の荒川土手にあり、「五海道中細見記」によると「久下土手御休所、名物もち有、みかりや金太夫」、「名物ゆびしあり」と記されている。「みかりや餅」と「ゆべし(柚餅子)」を名物とした茶屋で、代々金太夫を名乗っていた。溪斎英泉「木曾道中 熊谷宿 八丁堤景」には「あんころ」「うんどん」の表記があり、食事処でもあった。

市史編さん室の調査などによると、「みかりや」という屋号は、「御狩屋」と書かれた一反ほどの暖簾を、寛永10年頃(1639年)に忍藩主を務めていた阿部豊後守忠秋(1602-1675)から賜ったことにはじめるという。暖簾は戦時中に失われたとされる。忍藩主は、久下河原で度々狩りをしており、その折に戸森家の茶屋で休憩し、その際にあんころ餅を出したところ気に召されたという逸話が残されている。以降、鷹狩りのときには立ち寄るようになったことから、暖簾を賜ったとされる。戸森家の歴代は、...広助(山谷) 弥四郎 金太夫貞信 昭三 茂秋と継承されている。

「みかり屋」関連資料の概要について

1 版木

戸森家が所有する版木は全16点あり、いずれも当時の家業であった売薬に関するものである。「家伝神妙湯」は、「免許家伝神妙湯腫脹之薬」「神妙湯免許日本一家伝はれもの」妙薬などと薬名が記されている版木があり、それらの多くは、主治効能、用法、注意書などをまとめたものである。その他、「精順湯」(瘡毒の妙薬)、「救瘡丸」(瘡毒の妙薬)など売薬の版木が確認できる。刷物にして、宣伝のために配布されたものであろう。後述の売薬関係文書とも併せてみる必要がある。

2 看板

看板は全12点である。そのほとんどが売薬関係の看板であり、いずれの状態からみて、店頭などに吊り下げられていたものと考えられる。「免許売薬営業」という販売許可を示す墨書の看板があり、他に前述の版木にある「神妙湯」「救瘡丸」「精順湯」などの看板がある。更に他の看板には、「吉見大々桐生講」とあり、各地の講において庶民を取りまとめた「大々講中」の定休所であることを示した看板である。戸森家が所有している看板のうち4点は、埼玉県立歴史と民俗の博物館が寄託管理している。

3 関係文書類の概観

本文書群は全250件あり、最も古い文書は寛文4年(1664)の「増補以呂波雑韻(上・中・下巻)」という書籍であるが、裏表紙に明治22年(1891)2月という年月と戸森広助の蔵書である旨が記されていることから、明らかに後年に入手したものであると推察される。本文書群については、幕末期から明治・大正期の文書が大半を占める。市史編さん室の調査報告に基づき次の分類として区分し、その中における貴重文書を抽出し文化財指定の検討を行った。

4 売薬など所業に関連した帳簿類

戸森家文書には、売薬に関する帳簿や刷物が遺されている。戸森家では、瑱珠散（目薬）・神妙湯（腫物など）・精順湯（夜尿症・婦人病など）・救瘡丸（淋病・梅毒）・皮膚病薬（おできなど）などの薬を製作・販売しており、その過程で作成された関連文書である。文書は、明治42年から大正15年までの諸帳簿や刷物があり、全18件（79点）が保管されている。文書の作成者は、ほとんどが戸森金太夫で、「金盛堂」という屋号も確認できる。

内容は、まず薬の製造に関する文書の代表例として「神妙湯製造帳」を挙げることができる。大正7～11年の1冊、同11～15年の一冊、合計二冊が残されている。これにより、約9年間に製造された神妙湯の個数や単価を知ることができる。他の製造帳としては、大正10年の他の薬剤に関する「製造帳」1冊がある。

万能膏など薬の売買に関する文書として、検査願いに関する帳面がある。販売に関する文書については「神妙湯売捌帳」が二冊あり、大正7年から同11年までの販売記録をみることができる。これに加え、大正10年の「売捌帳」も保存されている。

多様な生業を営んでいた戸森家であるため、大福帳などの家の経営帳簿が数冊存在している。明治6年から同15年までの4冊である。表題は、「大福帳」「万覚帳」「金銀出入覚帳」である。明治6年「大福帳」や明治11年「金銀出入覚帳」には、作成者が「御狩屋金太夫」「御狩屋弥四郎」とあり、前述した屋号「御狩屋」を裏付けるものである。

明治10年の「神事諸入用払方帳」は、祭礼などの入用を書き留めた金銭帳である。「愛宕登り」「雷電灯明」「地藏灯明」「下久下地藏灯明」などさまざまなものの入用が記されている。戸森家の信仰活動の一端をうかがうことができよう。また、明治2年の「旗奉納諸懸り帳」は、旗を製作して奉納した際の帳簿である。白生地 of 反物を購入し、染色・縫製し、竹を通して旗とした。金三十五両余りを要しており、その費用を上岡村・山田村・大谷村などからも集め、久下村の金太夫本人も金二両二朱を納めている。こうした経緯を追うことのできる史料である。

5 絵馬講連名帳・所蔵書類等

戸森家文書には、絵馬の講や販売などに関する帳簿が含まれている。戸森家は絵馬を製作し、上岡馬頭観音（東松山市妙安寺）などで売り出していたことから、その過程で作成された文書であると推察される。

文書は、明治8年から昭和2年（1927）に至るまでの諸帳簿が遺されており、全24冊を確認することができる。文書の作成者は、明治12年までが戸森弥四郎で、それ以降は戸森金太夫である。その中では、「絵馬講連名帳」が13冊と最も多く、大半を占めている。年代的には、明治8年から昭和2年までの帳簿である。

明治8年の「絵馬講連名簿」では、久下村・奈良村・相上村・熊谷町・石原村などの37名がみられ、講員から集金して開帳料として金一〇〇疋などを納めている。講員の人数の増減はあるが、絵馬講を組織していたことが分かる。明治17・19年の「絵馬講社中」という文書も「絵馬講連名帳」とほぼ同じ内容である。

また、「絵馬仕入帳」は、明治12年の1冊が遺る。これは、筆・刷毛などの代金をはじめ、大工代・かんな代などの手間賃から、駄賃などまで含めた絵馬製作に関わる金銭出納帳である。

製作された絵馬の販売に関連する文書としては、「絵馬販売簿」が明治22年の1冊が遺っている。これは、販売品ごとに絵馬の寸法・枚数・代金を記した文書で、購入者は地域的に久下村内をはじめ、上岡村・大谷村、山田村（滑川町）など広範囲へ渡っている。

このように、戸森家の文書には、絵馬講に関するものがまとまっており、本文書群の特徴の一つとなる。なお、関係資料として、戸森家には絵馬に関する型紙が多く保存されている。

安政6年「根本山参詣路飛渡里安内全」は久下村をはじめ、熊谷新宿・下宿・上宿、妻沼町などの店を紹介した刊本であり、幕末期の宿場の様子を知ることができる資料である。

6 日本画「架鷹図」(かようず)

戸森家では、日本画「架鷹図」の本絵と下絵の2点を所有し、ともに表具され掛け軸として保管されている。下絵の構図を基に本絵の着色が行われたことが分かる。ともに上部が欠落し、新たな用紙の貼り込みによって補正されている。絵師や筆年の記録は残されていない。絵は葵の唐草模様柄の止まり木に鷹が身を置き、迫力ある眼光を画面左方へ向けている。鷹の足に結ばれた留め紐が忠実に描写され、鷹狩りを表現する資料としても貴重である。

7 型紙(絵馬製作用)

戸森家には、絵馬製作用の型紙が多く保管されている。その多くは渋紙であり、年代の記載から確認すると、明治39年から大正14年のものである。なお、同家の絵馬は、昭和3年に金太夫貞信が亡くなり、その時点で製作を終えている。

これらの型紙については、平井加余子氏による調査・整理がなされ、目録が作成されている(平井加余子「戸森金太夫家絵馬型紙目録」(立正大学北埼玉地域研究センター編『熊谷の絵馬』1992年、70~73頁)。この報告によれば、全318点として示されている。その後の保管状況の変更等により全数の確認及び詳細調査は今後において補完したい。

(出典・主な参考文献)

- ・熊谷市史編さん室「久下戸森家の資料」(栗原健一)2017年
- ・三田村佳子「講帳よりみた絵馬講の推移～上岡観音絵馬講～」(『埼玉県立民俗文化センター研究紀要』2号、1985年)
- ・小野文瑠「『熊谷の絵馬』について」(『立正大学北埼玉地域研究センター年報』15号、1991年)
- ・立正大学北埼玉地域研究センター『熊谷の絵馬 庶民の祈りと暮らし』(1992年)
- ・東松山市教育委員会編『東松山上岡観音の絵馬市の習俗』(2001年)